

恵庭市総合計画審議会専門部会 会議録

会議名	恵庭市総合計画審議会（第1回）専門部会 / 地域振興部会	
日時	平成17年2月21日（月）午後3時～午後5時	
会場	市役所（3階）303会議室	
出席者	委員～松尾委員、村本委員、吉岡委員、井関委員、岡田委員、原田委員 市側～竹村（企画財政部長）齊藤（企画財政部次長）吉田（企画調整課主査）廣田（企画調整課主査） 所管部～佐々木（経済部部次長）野沢（農業活性化支援センター所長）松山（総務部次長）山崎（議会事務局次長）	
記録	氏名	企画財政部企画調整課 主査 廣田 秀 則

1. 開 会
2. 審議事項
 - (1) 総合計画策定に向けた基本事項の調査・検討について
 - (2) その他
3. その他
4. 閉 会



会議の概要

- （松尾部会長）** 事前に委員に配布されている資料には、恵庭の地域経済や活性化についていろいろ書かれています。例えば都市農村交流ゾーンや観光、商業や工業など、今日は、皆さんの身近な立場で結構だと思います。意見を述べていただきたいと考えています。原田委員から順次お願いします。
- （原田委員）** 観光について、市外から恵庭に来ても見るところがないと言われます。特に冬は行くところも少ないですから、景色や食べ物を楽しむことのできるようなことで、少し視点を変えて考えたら良いのではないかと考えています。
- （村本会長）** 今、資料を見て何か意見をということですが、例えば、「道と川の駅」について平成18年度には整備されることになっている。これを新しい10か年の計画の中に何をどのように盛り込めば良いのか見当がつかない。都市農村交流ゾーンについても議論されているようですが、個人的には構想のイメージがつかめていない。もう少し市の考え方、方向性を具体的に聞かせていただいた上で、その中で我々が意見を出していく、そんな方法で議論を進めていければ、皆さんも意見が述べやすいのではないかと。

（松尾部会長） 私もその点は感じています。事務局から「分野別基礎調査(概要)」が資料として配布されていますが、専門部会としても、新しい総合計画の素案を審議するためには、第3期総合計画の中で提案されたプロジェクトなど事業の進捗状況やこれを基に第4期総合計画にどう反映していくのかなど考え方、組み立て方について、部会としてもまとめなければならないと思っています。そのことを委員の皆さんが認識して議論する必要があります。今、事務局から示されている資料を審議するだけでは、新たなものを組み立てられないと感じています。事務局の説明では審議会は多くても4～5回と示されておりますが、できれば皆さんが納得のいくまで議論することが重要だと考えます。回数が多くなっても必要かと思っています。

（村本会長） 例えば、恵庭RBパークの運営内容、リサーチコアの展開にしても、もう少し具体的に内容を理解していないと、今後どのように進めていくのが良いのか判断がつかない。工業団地についても、未分譲地を埋めるための方策を考えていくことになるが、景気の分析も必要になる。基礎的な分析を整理していただければ、今後の議論を深めることができるのではないかと。

（井関委員） まず、私自身が議論に参加していく中で疑問として、まず計画の策定に向けた議論の核に入る前に論議しておくことがあると思うわけです。例えば、10年先の財源の見込みとか、今の歳入範囲内でやっていけるのか、5%、10%ぐらいずつ落ちていくのか。人口も、10万人を狙うとすれば年齢構成はどうかかなどを知りたいわけです。また、経済の分野では、恵庭の基幹産業である農業についても、年々農家戸数が減って470戸ぐらいになっている。出荷額も減っている。市街地の開発で農地面積も減っているわけです。農業の推移が5年先、10年先どのような歩みをするのかといった予測・推測が見えれば、私なりの考えを言えると思うのです。工業関係では、出荷額が約1300億ありますが、今後、企業誘致を進めて1400億ぐらいを狙って行こうとするのか、また、商業も小売業に元気がなくなっているのが肌で感じる。過去からの数値的な推移については統計書やアンケート調査で見ることができますが、5年とか10年先の予測とデータに基づく取組みについての考え方を知った上で議論の核に踏み込んでいけばと考えています。

（岡田委員） いただいた資料について、確かに書いてあることはわかります。先ほど井関委員も話されているように、もう少し細くなる前のものが必要になるんだと思うわけです。例えば、農業分野では第3期総合計画に沿って整理されているようですが、工業とか商業分野については、第3期で書かれていることについてほとんど触れられていない。逆に今はこうだからこうなったと表現されている。どういう調査が行われ、その結果こういうふうにとまとめたという経過を説明していただけると良いのではないかと。

（吉岡委員） 井関委員から何点か出されましたが、将来の大きな基本的フレームの説明はあった方が良いと思います。人口や財政の見通しは欠かせない要件です。もう一つは基本計画で計画されているものの熟度について、何が高まってどの段階にあるのか一定の判断の上で話していただきたい。今までのように過去の実績の流れで事が進むこ

とにならない。「読み」が重要になると思います。私たちが議論する中身も、今まで何もやってこなかったが、このまま何もしないということではなく、こういう手を打つべきではないか、あるいはこうできないかなどを議論していくことになると思う。ですから、あまり細かくなくても良いのですが、大枠の基本的なフレームについて捉えておけば、次に個別の議論に入っても方向性を失わずに話しができるのではないかと考えています。

（松尾部会長） 各委員の意見として、計画の核心に入る前に時代の変革期の中で進めてきた第3期総合計画、例えば人口問題、ハイコンプレックスシティ構想、水と緑のやすらぎプランなどの進捗状況、商業や工業における取組みの経過、個別でみれば未分譲地をどうするのかというような課題について、今の恵庭の現状をお話いただいた中で専門部会として議論を進めたいという意見が主流です。議論の入り口部分でもあることから、まず、フレームの部分について説明をお願いしたい。

（企画財政部長） まず、第3期総合計画の達成状況の詳細については、今、取りまとめ作業を進めています。3月末にはお見せできると考えています。人口と財源については、計画を策定する上で必須であると認識しています。これも庁内の策定委員会の中でも議論を深めていただいています。これまでの経過として、第1期の総合計画における想定人口は8万人、次に、2期が8万4千人、そして3期が8万人を想定しました。次期ですが社会情勢など総合的に判断しながら試算しておりますのでもう少し時間をいただきたいと思います。財源について、現在、市ではH16年からH18年までとする財政収支計画を策定し、収支の改善や財政の健全化に向け取り組んでいるところです。次期の計画としてはH17年からH19年までの3年間を対象に策定することになっています。尚、総合計画の基本構想は10年を想定し計画します。しかし、国の三位一体の改革や社会経済状況の大きな変化を考えれば、現時点での考え方として、財政的な計画は基本計画の前期5ヵ年分について策定することになると考えています。施策を講じていくためには財源的な裏付けが必要です。具体的な数値については、現在、議論をしているところでもありますのでもう少し時間をいただきたい。尚、これらの問題については、将来像などを含めて「総合調整部会」の中で、さらに議論を深めていただきたいと考えております。

（井関委員） 財源的にあてにならない計画を策定しても意味がないわけです。空想や夢物語でなくて3年、5年先の現実を見て議論をすべきだと思います。5年先であればある程度は身近な話として具現化できる計画を打ち出していけるのではないかと思います。工業関係ですが、例えば、昔、ハイコンプレックスフェアというのをやりました。確か1回きりの事業でしたが、あれもオリンピックじゃないけど4年に1回くらいは継続してやれば、計画的な製品開発に取り組んでくれるのではないかと思います。市民に会社や工場を知ってもらいたい良い機会になるのではないかと。その意味でPRにもなるし、そういうイベントも計画に盛り込んでみたいと思います。商業関係についても、恵庭RBパークのようなイベントのできる場所で何かを企画する、また、農業関係もそう思います。恵庭の農業をもっと知ってもらいたいイベントを毎年とか2年に1回開催するなど、元

気な雰囲気を与えるようなイベントがあれば良いなと思いますね。

(事務局) 第3期総合計画の取組みの経過について、既に各委員に配布していた資料「(第4期)恵庭市総合計画の策定のあたって」に基づいて説明を行う(主に5P~14Pを説明)

(松尾部会長) 事務局から、第3期総合計画の取組みの主な経過や課題などについて、若干、触れていただきました。ご意見があればお願いいたします。

(村本会長) 恵庭市はどこに向かっていくのか。恵庭市のまちづくりはどこを向いているのか。こういうことが明確にならないと個性あるまちづくりにはならないと思うのです。例えば、街の中に立派な建物をたくさん作ることが恵庭の個性をつくるのか、あるいは人に優しいまちづくりを徹底的にやるのか、恵庭の個性を考えるにしても具体的に明確な考えが必要になる。暮らしについてはこうでないか。緑はこうでないかという話が出てくる。そのような議論を踏まえた上で、まちづくりの計画を考えていく必要があるのではないかと。もう一つ、ここにも書いてありますが、受益者負担を考えると、市民に対してどのように理解してもらえるのか、ここで真剣に議論をしておく必要があると思います。例えば、花のまちづくりという課題に対して、市民が取組む花づくりに、行政は具体的にどんな支援ができるのか明確に打ち出す必要があると思っています。これに限らず、計画のそれぞれの項目において市民が納得できるものを提案していくことが重要なのではないのでしょうか。

(井関委員) 広域ゴミ処理施設については、第3期計画に盛り込まれ検討されてきたようですが、今年度中には着工されるのでしょうか。また、聞くところによれば事業費が総額100億とか150億といわれています。恵庭市が負担するのはその内のどのくらいで、それを返済するとなれば何年くらいかかるのか知りたい。

(松尾部会長) 今後、部会で議論する上ではこういう施設を建設していくとした時のランニングコストも頭に入れておかなければならないと思います。そういう意味では、先ほど、市の財源について議論もありましたが大事になると思います。尚、事務局から第3期の過程と主な恵庭市の課題などの説明をもらいました。この議論を踏まえた中、先ほど村本会長から出たように、どこから審議に入るのが良いのかこの点について皆さんからご意見をいただきたいと思います。

(吉岡委員) 先ほど説明していただいたことは一般的な話で、その上でもう少しインフォメーションが欲しいと思います。例えば、道と川の駅のような今後影響を及ぼすものがこの基礎資料の中でどれくらい含まれているのか。また、第3期から引き継ぐことになる都市農村交流ゾーン構想の状況と第4期の中での位置づけなどについて、あるいは、観光では、大庭園をオープンするとありますが、そういう我々の判断に影響を与えるような基礎的なものについての情報が欲しいわけです。めばしいもので良いですから、今日は、市の担当の方も来ていますので大き

なポイントになるところを踏まえて、それから我々の中で「恵庭って何のまち」というものを議論して、今後、それをもとに問題提起していきたいと思っています。細かい数字は必要ないと思います。口頭で説明できる範囲でお願いします。

(岡田委員) 資料を基にある程度固まった、限られた部分で議論をするのか。次回、全体の中で議論するのかを決めないといけないと思うのです。次回までにもう1回やってみるの良いのではないか。

(井関委員) 前回会議で岡田さんが話されたと思うのですが、第3期の平成17年までの計画がどの程度進捗しているのかを聞きたいわけです。まあ7割方達成したとか、おおむねこの程度まで進んでいるとか、途中で中止したとか、事業の進捗状況を教えて欲しいと思います。

(松尾部会長) 次回、3月の審議会でそのあたりの説明がされると思います。委員の皆さんからそれぞれ意見をいただきましたので、先ほどの吉岡委員から指摘のあった産業の分野についての説明を市の方でお願いしたい。

(経済部次長) 「分野別基礎調査(概要)の(地域経済)5-1」に基づき、概要を説明。

(吉岡委員) 外側から恵庭市を見ている人間として問題提起したいのですが、恵庭はどういったところが稼ぎ口になっているのかを考えてみる必要がある。稼ぎ口には2つの意味があって、市役所の税収が上がるという稼ぎ方と、人が動いたり、物が動いたりしてまち全体に循環が起きて稼ぐという動きがあります。先ほど、農業のまちだという話もありましたが、大きく3つぐらいに分けると、1つはベットタウン。今まで社会基盤整備に投資してきたわけですが、ようやく回収出来るかなあとと思ったら高齢化社会。もう1つは自衛隊だと思えます。あれだけの隊員が恵庭にいるわけですから税収を担っている。あとの1点は、従来型の区分による産業で、農業、工業、商業です。その中で、農業は都市化が進んでおり環境が厳しくなっている。統計を見ると一戸当りの大型化が進んでおり、農業だけでやっていくのか、農業プラス観光の視点で捉えていくのかなど、商売なのか農業としてやっていくかがポイントになってくる。工業は、完全に伸び悩んでいて、今の経済状況が画期的に動かない限り、恵庭が頑張っても大変厳しい。商業は、全体のボリュームは変わっていないが郊外型に移行していて、まち中で変動が起きている。あと観光は大きなポイントになると考えています。その観光で言うと、捉え方が3つあって、1つは観光業として捉えるのか。従来の農業、工業、商業、観光業として捉えるやり方、例えば、道の駅を行政が整備してそこで農家の方が商品を買えば農業と商業が結びつく。あるいは、ベットタウンの人たちと観光を結びつけていく方法、例えば、花の関係では恵庭では実践していますが、自分たちの住環境を良くしたいと思って花を始めて、それをベースとした観光もあるわけです。事務局で用意いただいた資料は商業課とか工業課とか観光課という割り方でつくられていますが、私たち委員の方では、それを絡めながら、考えを打ち

出していくかが知恵の出どころなのではないかと思っています。

(松尾部会長) 第1回目の地域振興部会として、それぞれの委員の中で意識の確認ができたという部分では良かったと感じています。第2回の専門部会の予定ですが、できれば3月中旬頃に開催したいと考えますが、いかがでしょうか。

(岡田委員) 第3期の実績をどの程度まとめ上げられるかによるのではないかと。

(松尾部会長) 時代背景もあるかと思いますが、期間の中で計画が断念されたものや介護関連のように新たな制度として取組まざる得なくなったもの、継続しているものなど、内容的にはいろいろな要因があると思いますが、福祉や教育、経済など全般的な分野について事務局でまとめていただきたいと思います。

(事務局) 次回の会議を3月25日(金)の午後2時にしてよろしいでしょうか。

(松尾部会長) では、次回の会議を25日(金)の2時に決めたいと思います。

以上